

迫力の流鏑馬で有終

彦根城フェス 栃木・佐野の神事に歓声



2カ月間にわたって繰り広げられた「彦根城フェス」のフィナーレを飾る流鏑馬。が30日、彦根市金龜町の大手前保存用地（旧近江高跡地）で行われ、観光客らが迫力ある姿に歓声を上げていた。

彦根城フェスは、全国セ、市や商工会議所でつ城サミットの開催に合わせて実行委員会が10月1

日から甲賀祭などさまざまな催しを行ってきた。同市と親善都市の関係にある栃木県佐野市の祭りで行われる流鏑馬で、フェスの最後を彩ることになった。

佐野市の祭りに出場する東京都の「倭式騎馬会」の男女のメンバー11人が狩装束で日本在来の和種の馬に乗り、さっそうと矢を放つて的を射ると、大勢の観客から拍手と歓声が湧き起こった。

初めて流鏑馬を見たといふ地元の城西小5年谷口純大君（11）は「馬がとても速く、的を射るところが迫力があった」と話していた。（山百合子）

「彦根城フェス」最終日のイベントとして披露された流鏑馬（彦根市金龜町）